



英語構文の語彙的・構文論的分析

Keywords: 語彙意味論、構文文法論、コーパス言語学、語法研究

● 研究概要

英語に見られる項構造構文を対象とし、語彙意味論や構文文法論の立場から構文の構成性を明らかにすることを目的としています。英語母語話者がもつ言語直感に潜む規則性や適格性を客観的に記述することが研究テーマです。

● 研究テーマ

・英語の項構造構文の構成性を明らかにする

英語の項構造構文のなかには構文自体に特有の意味をもつとされるものがあり、適格性の判断に大きな影響を与えている。本研究では、構文を構成する各語彙の語彙の意味や語彙特性をつぶさに観察することで構文的意味がどのように生じるのかという構成性を明らかにする。具体的には、大規模コーパスを用いた質的・量的分析をはじめとして、統語的・意味的テストを試み、構文的意味が生じるメカニズムを明らかにする。

・医療系語彙の語彙集作成と学習プログラムの作成

近年、医療現場においてより高度な英語の運用能力が求められており、多職種連携型チーム医療を実践する際にはよりその需要が高くなる。本研究では、各分野に渡る横断的な大規模英文コーパスを自作し、医療分野に共通して用いられる語彙を全分野共通語彙として抽出する。次に、各分野において特有な専門語彙を抽出した上で、情報利得で重要度に応じてランク付けし、リスト化する。このような手法を用いることで、チーム医療を実践する上で共通語彙として理解すべき語彙を明らかにでき、また各専門語彙に関しても重要度の高い語彙から学習する見通しを立てることができる。最終的には、これらの専門語彙を効果的に学習するプログラムを作成し、医療系語彙が学習者に定着しやすい教材、学習案を提示する。

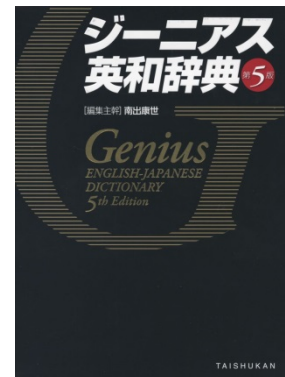
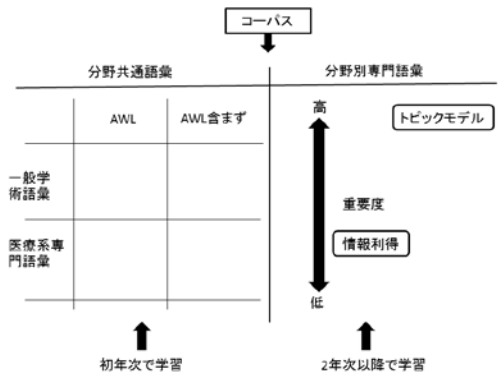
*本研究は昭和大学の高橋留美教授を中心とした研究グループとの共同研究である。

・研究成果の辞書記述への応用

英語学に基づいた分析によって蓄積された研究成果の一部を辞書の記述に反映することを実践している。『ジーニアス英和辞典5版』では類語比較の分担執筆を担当しており、コーパスを使用して類語の特徴をつぶさに観察し、辞書の定義に反映させている。このような語法的なアプローチは辞書の記述には欠かすことができず、理論と実際をつなぐ接点として非常に重要であると言える。



所属 基礎・教養部門
講師
氏名 吉川 裕介
Yoshikawa Yusuke



● 論文・特許等

【論文】

- 「at構文の構文的拡張と誇張解釈」『英語語法文法研究第20号』 p. 212-228. (2013)
- 「構文イディオムにおけるwitsの2用法」『JELS 28』 p. 45-51. (2012)
- 「V the hell out of 構文とイディオム」『JELS 29』 p. 183-189. (2011)
- 「動詞pourはなぜ場所格交替できないのか」『英語語法文法研究第17号』 p. 53-66. (2010) (第一回英語語法文法学会奨励賞)